

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700311		
法人名	メディカルケア御所ノ内株式会社		
事業所名	グループホーム ごじょう西小路 (3階 嵐山)		
所在地	京都府京都市右京区西院追分町 5番地		
自己評価作成日	令和 4年 1月 3日	評価結果市町村受理日	令和 4年 3月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkgyosvoCd=2690700311-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上梅湊町83-1「ひと・まち交流京都」1階		
訪問調査日	令和4年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京都武田病院・七条武田クリニックと医療連携を図り、必要時、看護師が付き添い迅速に受診して頂ける体制を整えている。コロナ禍で思うように外出できない為、各ユニットで新しい創作レクリエーションやイベントに積極的に取り組み、ご利用者が笑顔でお過ごし頂けるよう工夫している。お一人おひとりの心身の変化について介護職員、看護師が情報を共有し、その方に合ったきめ細かいケアを提供するよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「御所ノ内ホームごじょう西小路」は、1階に小規模多機能型居宅介護事業所と2～4階に3ユニットのグループホームを運営されています。3階のユニットは介護度も高く、車椅子利用者も多く、ほとんどの方が、2人で入浴介助をおこなっています。ご高齢で重度の方が入居されていますが、グループホームに2名の看護師を配置し、日々の健康管理や必要な時は関連病院の看護師や医師とも連携がとれて、利用者・家族に安心感を与えています。コロナ禍で蜜を避け、各ユニットごとの行事には、職員は「利用者に笑顔で楽しんでもらいたい」、「体力維持にもつなげたい」と、一人ひとりの得意分野で力を発揮したり、ネットで調べるなど、たくさんのレクリエーションを取り入れて日々の生活を充実させています。また、ブログでは利用者の笑顔満載の様子を発信して、「ブログ見たよ」「笑顔が素敵やね」などの声を聞き、職員の励みになっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はユニットに掲示し、理念を常に念頭に置くようにしている。理念に基づいたケアの実践を心掛けている。	法人の職員理念を3項目掲げ、パンフレットに掲載して事業所玄関やユニット内に掲示しているの で、利用者・家族は事業所の姿勢を確認することができる。職員は朝の申し送りで唱和し、ユニット会議で年2回理念を確認している。職員それぞれが専門職として確かな知識・技術・方法で利用者 に寄り添うケアを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が町内会に入っており敬老の日には毎年、社会福祉協議会より入居者様にお赤飯を頂いている。	町内会に入り回覧板をまわして挨拶を交わしたり、事業所前の通りの清掃をして貰う事もある。コロナ禍までは、地域の運動会や、地域の行事への参加や事業所の夏祭りに招待、近隣の保育園とは交流をしていたが、現在は、保育園だよりを毎月もらい、西院社会福祉協議会から恒例の敬老の日の赤飯が配られるのを楽しみにされている。レクリエーションや行事の時の笑顔いっぱい のブログをひんぱんに上げていき、地域の方も楽しみにしてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ブログを活用し利用者様の日常や行事の様子を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染対策の為、書面開催としている。以前は頂いたアドバイスを職員に伝えていた。	メンバーは西院地域包括支援センター職員、大家さん、民生委員、老人福祉員、近隣の特別養護老人ホームの施設長、グループホームの家族で併設の小規模多機能型居宅介護と合同で2ヶ月に1回開催していたが、コロナ禍で、書面開催で報告のみとなっている。利用者の状況や事故・ヒヤリハットの報告、行事の様子、職員の異動などを知らせている。書面開催が続いているのでメンバーから意見をもらうことが少なくなっている。	・小規模多機能事業所の家族の参加を呼びかける。 ・書面開催時はメンバーに資料を渡し評価や意見をうかがい、事業所のコメントも入れた議事録として再度メンバーに配布されることが望まれる。 ・本調査のための利用者アンケートの回答で、「職員の異動は家族が知らないことが多い」とあったが、職員の異動を会議の報告事項とされているので、家族全員への議事録の配布で理解が深まるのではないかと。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退去、事故等を伝えている。	運営推進会議の議事録を持って行き、窓口の担当者に渡している。また、利用者の入退去や事故等の報告事項は速やかにおこなっている。コロナ禍で、事業所連絡会は開催されていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で理解を深め、新入職員を含め全職員が身体拘束について正しく理解してケアを行うよう取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を3か月に1回開催している。「身体拘束・権利擁護」の内部研修は年2回実施しているが今は新型コロナウイルス症拡大防止のため各ユニット代表者のみの研修とし、代表者はレポートを作成のうえユニットで資料を配布し伝達研修をしている。伝達研修を受けた職員は押印をしているが徹底されていなかった。1階玄関は防犯のため施錠しているが、ユニット入り口やエレベーターの施錠はせずに身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者がおちつかれない時は、職員が寄り添って介助している。言葉の抑制にも気を付け、職員同士で声をかけあっている。皮膚疾患の保護のため、家族の同意を得て、つなぎ服を着用している利用者のことは記録をして、委員会で定期的に検討をしていたが、皮膚疾患が治癒して解除された事例がある。	身体拘束防止委員会の記録や、内部研修の記録を職員に周知した後職員の押印を徹底されることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学ぶ機会があり、不適切な利用者様への言葉かけ等を見逃さないよう職員同士、声を掛け合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学ぶ機会を持っている。必要があれば、活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、不安や疑問点を尋ねながら説明し、理解頂くよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様アンケートを実施し、頂いた意見は職員に伝えてサービス向上に努めている。	家族の意見や要望は面会時や電話で聞いている。家族アンケートを法人が7月に実施し、施設ごとに集計して帯グラフでも表して良く分かるようにしている。集計表は玄関の掲示板に公表し、家族には送付の予定で進めている。家族の声は事前予約なしの面会や外出希望の声聞かれる。コロナウイルスの動向を見ながら、法人の指導の下に取り組んでいる。今までのように面会ができないなか、コロナ禍の面会は事前予約で1日4名まで2m離れて2名までの参加可で時間を決め家族に協力してもらっている。気づき箱(意見箱)は玄関に設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議以外に日常的に職員の意見を聞き、可能な限り反映させるように努めている。	職員の声は日常業務の中やユニット会議で聞いている。職員からの意見は修繕箇所の申告や職員体制についてである。コロナ禍で、業務が煩雑になっているので、疲弊しないようにしたいと管理者からは職員の頑張りを評価する声が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	主に職員個々の自己評価表を通して、個人の倫理観や職務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や経験等に応じ、法人内外の研修を受ける機会を確保するよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、勉強会等には参加していないが、オンライン研修の中で同業者と意見交換する機会がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと傾聴し、傾聴が難しい利用者様の場合は行動から不安、要望を読み取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心して、困っている事、不安等を伝えて下さるような雰囲気をつくり関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を尊重し適切な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分でできる事は、できる限り自分で行って頂けるよう支援し、日常の会話やレクリエーションで笑い合うなどの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関連病院以外への受診の際の付き添いをお願いしている。コロナ禍で行事への参加も難しいが、毎月のお便りや電話で様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、面会も制限がある中で行っている為、職員との会話の中で馴染みの方や場所の話題を取り入れている。	入居時のアセスメントで生活歴や生活状況を把握して、馴染みの関係の人や場所、趣味や楽しみ事などを把握している。また入居後も会話の中から聞き取っている。友人が訪ねてきていたが今は無く、電話や手紙で交流している。各ユニットのブログで行事やその日のできごとを伝えている。家族には写真入りの便りを送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係や状況に応じて、良好な関係を保って過ごして頂けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば応じていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握が難しい方は、日々の様子から職員が気付いた事を出し合い希望、意向の把握に努めている。	入居時に利用者の望む生活と家族が望む生活を聞き取っている。入居後に聞いたことは介護記録に記入して意向の把握に努めている。意思表示がしにくい人は好きなものを食べたら嬉しそうな顔をされるなど表情で把握して本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報だけでなく、ご本人の思い出話などからも把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の会話や行動をから、些細な変化も把握するよう努めている。		

京都府 グループホーム ごじょう西小路（3階 嵐山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族に意見や要望を伺い、関係職員が話し合って介護計画を作成している。	入居時に利用者・家族から聞いたことや医療情報や入居迄の情報をもとに、アセスメントを策定している。得た情報をもとに、サービス担当者会議で話し合い、初回は3ヶ月の介護計画を作成している。介護記録や連絡ノートをもとに担当職員がモニタリングをまとめて事前に医師の所見や看護師の意見、家族の意向を聞いておき情報提供をしたうえでカンファレンスをおこなっている。1年ごとの再アセスメントで変化のあった時は赤字で追記し、現状に即した介護計画を1年ごとに作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記録し、必要に応じ連絡ノートなどを活用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況の変化に応じて、ご家族と話し合い柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の大型スーパーでの買い物、食事や公園でお花見など、コロナ禍以前は楽しんで頂いていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関連病院からの月2回の訪問診療については、入居時にご家族の希望を確認して同意を得ている。	利用者・家族に入居時に関連病院から月2回の訪問診療があることを話し、希望を聞くが、今迄は全員の方の同意を得ている。訪問診療での受診時は事業所の看護師が付き添い対応している。歯科医の訪問診療や歯科衛生士の指導を受けている人もいる。他科への受診は看護師が作成した医療介護情報提供書を家族に渡し持って行ってもらっている。介護職員は看護師に利用者の変化や気づきを伝え指示を得ている。日中早い目に受診することで夜間の急変は減少している。看護師は24時間オンコールで緊急時の対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の状況の変化についての気づきは、看護師に速やかに報告し、必要時、適切な受診を迅速に受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関連病院の京都武田病院・七条武田クリニックとは常に連携を図っている。その他の病院関係者とも看護師を中心に関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所でできる事をご家族に説明し、意向を伺っている。また状況に応じ話し合い方針を共有している。	「看取り介護と重度化に係る指針」を用いて、入居時に説明し、同意を得て事前意向確認書を記入して貰っている最後は入院する方が多く、今まで、ぎりぎりまで支援をしていた方はあるが、看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や救急救命講習、AEDの使い方講習で身に付けられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練では、夜間を含めた時間帯を想定、夜勤者一人の場合の誘導方法についても身につけられるように図っている。	消防訓練は年2回(夜間想定を含む)小規模多機能型居宅介護(事業所)と共同で実施している。消防署と相談・報告はしているが今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参加依頼をしていない。夜間想定では利用者の安全を守る方法を検証し、参加者で反省課題を明らかにして全職員で共有している。京都市から、「洪水に関する避難確保計画」作成の要請に応じて作成・報告している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため施設内での図上訓練を実施、コロナ終息後には訓練の実施を予定されている。近隣には消防訓練のお知らせを回覧するが参加は得られていない。各ユニットで3日分の備蓄をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に家族に確認した避けるべき話題や、ご本人の生活歴に配慮して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、対応を行っている。	利用者の尊厳を大切にしたい対応ができるよう入居時に家族から生活歴や避けるべき話題などを聞き取りそれぞれの利用者に応じた話題の提供や話し方声のかけ方など気をつけている。接遇やプライバシーの研修は、参加者がレポートを作成しユニットごとに、資料を配布して伝達研修をしている。	

京都府 グループホーム ごじょう西小路（3階 嵐山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人と職員が信頼関係を築き、声掛けや傾聴に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望やペースを尊重して過ごして頂くよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に服を選んだり、訪問理美容で希望に沿うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事ごとにメニューを伝えている。できる方には、お盆拭きを依頼している。	朝食は職員が作り、昼食・夕食は業者から弁当形式で届けられた物を食器に移し替えて提供している。ご飯は各ユニットで炊くので、利用者と一緒にお米を研いだり、お盆拭きをしてもらっている。各ユニットで利用者の希望する食事や行事食を作ることもある。また、レクリエーションとして手作りおやつ(誕生日ケーキのデコレーションやホットケーキをひっくり返す、たこ焼きや色とりどりの七夕ゼリーなど)と一緒に作って楽しい時間を過ごしている。外食や出前はとっていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分は摂取量を記録し必要量を確保できるよう支援している。また、食事や水分を安全に摂取できるよう一人ひとりに応じた形態、トロミ、食器、介助方法など工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアを実施している。		

京都府 グループホーム ごじょう西小路（3階 嵐山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、排泄パターンを把握しトイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄のリズムを個々に把握し、トイレへの誘導や居室でのパットの取替えや洗浄などの支援をしている。2人介助が必要な方が多く、トイレでの排泄を支援していきたいが、だんだん難しくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の支援、体操への参加を促し便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いすることのないよう入浴に誘い、好みの湯加減で入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	週に2回を原則に希望やタイミングに合わせて支援している。おもに午前中に入浴しているが、1階の機械浴を使用する人が多く、他のユニットと調整し、1人介助や2人介助の体制も考えながら、ゆったりとした時間が取れるように工夫している。体調やけがなどによりシャワー浴や足浴の場合もある。また入浴を嫌がる人には日を変更して対応している。毎回湯を入れ替え、足ふきマットは毎回変えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は常に清潔を保つようにしている。室内の温度、照明に配慮し安眠できるように支援している。一人ひとりの希望や状況に合わせて日中もベッドで休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をファイルし周知している。内容に変更があればその都度、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた楽しみ、嗜好品を提供している。また、その方が出来る家事を依頼し労いの言葉を伝え、役割を感じ張り合いを持って頂けるよう支援している。		

京都府 グループホーム ごじょう西小路（3階 嵐山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染対策の為、受診以外の外出は制限させて頂いている。	コロナ禍のため、通院以外の外出は制限されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、利用者様はお金を所持しておられない。希望や必要に応じ、買い物や支払いを代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は、電話で話せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や室温を調節し、季節感のある創作物を利用者様と作成し展示している。	リビングの東方向の大きい窓からは陽が入り、明るく温かい中で職員とゲームを楽しんでいる姿が見られる。大きいテーブル2台をみんなで囲み、小さなテーブルを使い利用者の関係性の配慮や用途により座る場所の工夫をしている。車いすの方も椅子に移り、利用者に合わせて足台を置き、安定して座位が保てるようにしている。利用者の書初めの展示や職員と共に作成した正月飾りの大作を壁に飾り季節感を感じている。入口のホワイトボードにはその日の昼食・夕食の献立が書かれ利用者と確認できるようにしている。排煙窓で定期的な換気や空気清浄機で感染症予防を心掛けている。清掃や消毒は職員が行いチェック表をつけて居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席に配慮し共有空間の中でも、独りになれる居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具を活用し、ご家族の写真などを飾っている。	居室の入り口は引き戸で壁に部屋番号と写真を掲げ、扉には名字を書いたプレートが貼ってある。部屋にはベッド、エアコンディショナー、カーテンが設置され、利用者の馴染みのチェストやタンス、仏壇、テレビなどを持って来ている。また家族や孫の写真や年賀状や娘の手作りのクッションがなごませている。清掃や消毒、室温調節は職員がおこない快適に過ごせるようにしている。	

京都府 グループホーム ごじょう西小路（3階 嵐山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・各居室に名前を表示し、利用者様が確認できるよう工夫している。		